学校だより
令和5年度　2月号
なつのくも
第174号（R6．2．1）
練馬区立光が丘夏の雲小学校
本校ホームページ新QRコードです。スマホなどからも閲覧できます。ご活用ください。

自分の感受性くらい

副校長　市村　大

「西から昇ったお日様が　東へ沈む」…このフレーズを読んで、自然とメロディーが流れた方は、昔、この歌を聞いたことがある方々ですね。有名な「天才バカボン」のアニメ主題歌です。実際に、様々な条件をクリアすることで、「西から昇ったお日様」を見ることは可能らしいのですが、難しい話は置いておいて、一般的に日本では「太陽は東から昇り、南を通って、西に沈む」というのが常識です。

このアニメが放送されたのは、今から50年以上前です。作者の赤塚不二夫さんは、戦後ギャク漫画の大御所とも言える人で、今なお愛されるキャラクターをたくさん遺しました。主題歌に代表されるように、非常に不条理な世界観なのに、それを笑いに変えていく作品は、子供たちに大人気となりました。現代では、原作やアニメを見たことがない人も多いと思いますが、「バカボン」「赤塚不二夫」という名前を聞いたことがない人はほとんどいないと思います。

でも、先日ふと考えてしまったのです。もし、この時代に赤塚不二夫さんがいたらどうだったのかと。天才バカボンがアニメ化されてこの主題歌が流れたらどうだったのかと。そもそも、赤塚不二夫さんが考えるギャグの世界観は、現代では受け入れられない・認めてもらえないかもしれません。そして、仮にアニメ化されても、「西から昇ったお日様が　東へ沈む」と流れた途端に、クレームの声が上がるでしょう。「こんな嘘を堂々とアニメで流すな」と。

ほとんどの人は、そういう反応をしないかもしれない。しかし、現代は個人で何でも情報が発信できる時代です。そして、声の多数ではなく、声の大きさがものをいう時代です。極一部でもこのフレーズに不快感をもち、それをSNS等を活用しながら訴え出れば、修正せざるを得ない流れが生まれます。こうして、50年前には大ブームとなり、歴史に刻まれる名作になったものも、現代では語られることなく、消えていくのではないかなと思います。我ながら、なんてくだらないことを考えているのだとも思いますが、結構真剣に考えていたのも事実です。

今から30年ほど前でしょうか。海外のニュースで、コーヒーを膝にこぼしてやけどをしたのは、コーヒーが熱すぎたからだと訴えて裁判になったという話を見ました。いやいや、何を言っているのか。そもそもこぼさなければ済んだ話であるし、一般的にコーヒーは熱いものです。逆にホットコーヒーをたのんでお風呂くらいぬるかったらがっかりです。しかし驚くことに、この訴えが認められたとのこと。私はこの話を聞いたときに、どうしてこんな非常識な話がまかり通るのかと思いました。これでは、何でも言ったもの勝ちではないかと。

でも、世の中の流れはどんどんこの方向に傾いています。様々なところで予防線を張るかのように、本来ならば必要のない注意書きが増えました。テレビでも「この話はフィクションです」「後でスタッフがおいしくいただきました」…そんなことは想像できます。でも、それを言わないと文句を言う人が出てくる。世の中から「常識」「寛容さ」が無くなりつつあると思います。多様性を認め、少数意見を尊重することは絶対必要ですが、必要以上に他者を責め、自己主張を繰り返す風潮は、かえって自分たちの首を絞めることにつながっていると思います。

偉そうに主張していますが、私だって、いつそういう立場に陥ってしまうかわかりません。だから、時々思い出す詩があります。茨木のり子さんの「自分の感受性くらい」という詩です。

うまくいかないことを、他人や世の中のせいにすることは簡単です。だからこそ、自分を戒めます。愚かな「ばかもの」にならないように。たとえ世の中の風潮が変わらなくても、私は私の大切なものを守っていきたいです。

自分の感受性くらい

茨木のり子

ぱさぱさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて
気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか
苛立つのを
近親のせいにはするな
なにもかも下手だったのはわたくし
初心消えかかるのを
暮らしのせいにはするな
そもそもが　ひよわな志にすぎなかった
駄目なことの一切を
時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄
自分の感受性ぐらい
自分で守れ
ばかものよ